

鶴見区 榎本小学校生涯学習ルーム「榎本フラガールズ」

～小学生から90代まで、楽しく踊ってます！～

今回ご紹介するのは、鶴見区の榎本小学校生涯学習ルーム「榎本フラガールズ」です。

榎本小学校は、近隣に高校、中学、保育園などがあり、落ち着いた街並みの中にある、明治42（1909）年創立の歴史ある小学校です。

児童数は約900人と、市内でも大きな規模の小学校です。そんな榎本小学校には、生涯学習ルームが全部で5つ開設されています。書道、ビーズ、タヒチアンダンス、真美健康体操、そして、これからご紹介するフラダンス教室「榎本フラガールズ」です。

榎本フラガールズは、毎月2回、第2・第4週の土曜日の10時30分から12時まで、校内の多目的室で活動しています。

生涯学習推進員の水口正示さんに、榎本フラガールズについてお話をお聞きしました。

－まずは、榎本フラガールズのことを教えてください。

開設されてから15年目になります。下は小中学生から、現役世代、さらに上の世代と、いろいろな世代の人が集まっています。今日から新しく仲間入りする人もいて、全員で28人。1人欠席なのですが、今日はとても出席率が高いです。

－受講者はどのような人たちですか？

だいたい、榎本小学校区の人か、鶴見区内の人ばかりです。その中には、“朝フラ”と称して、この近くの放出西公園で朝早くにフラを踊っている人がいるんです。そうすると、自然と人が集まってきて、一緒にフラを踊ってくれたりするんだそうです。そんなところからメンバーを増やしたり、榎本フラガールズのファンを増やしたりしているんですよ。

－水口さんをはじめ推進員さんは榎本フラガールズ内でどのような立場で関わっていますか？

私は推進員でありながら受講者としてフラダンスに参加しています。榎本フラガールズに関わっている推進員は4人います。教室運営の細かいことは、推進員だけでなくみんなでやっています。負担にならないように、当番制でやっています。



幅広い世代が集まっています

－それでは、榎本フラガールズの活動をのぞいてみましょう。

開始時刻の10時30分になり、着替えが終わって全員が多目的室に集まります。みなさん、思い思いの色鮮やかなパウスカート（パウスカート）を身にまとい、室内が一気に華やかになります。まず最初に全員で入念に準備体操を行いました。

講師は江尻らん子先生です。江尻先生は、榎本小学校のほか、鶴見区民センターでもフラダンスを指導しています。

この日のレッスンは、明日、明後日とフラダンスを披露するイベントがあるため、その発表曲を中心に練習しました。

レッスンはスタートして10分ほど経つと、江尻先生は「はい休憩、水分補給して」と、休憩の指示をします。その後、最後まで10分ごとにこまめに休憩を入れていきます。

今日から仲間入りした人も、江尻先生の指導のもと一生懸命踊っていました。初めてと思えないくらい全体になじんでいるように見えました。そして、小学生の受講者も大人と変わらないくらい上手に踊っています。みんなで約1時間半、いい汗を流しました。



パウスカートがとっても華やかです

－レッスン終了後、講師の江尻先生にお話をうかがいました。

－江尻先生はいつ頃から榎本フラガールズの講師をされているのですか？

私は8年くらい前からここで月2回教えています。榎本小学校以外にも鶴見区民センターでも週1回教えています。ほかにもいくつか教室を持っています。

－榎本フラガールズは江尻先生にとってはどう映りますか？

みんなうまくなりましたし、とにかく、みんな元気！ここは小学校3年生のお子さんから、上はなんと91歳の方も一緒に踊っているんですよ！ついこの前も、有志のメンバーで沖縄の久米島へ行ってフラダンスを踊ってきたんです。そして明日は、鶴見区内の介護施設でフラダンスを踊ります。ここは毎年1回か2回、呼ばれて踊りに行っています。さらに明後日は、あべのハルカスで開催中のハワイのイベントに私たちも出演するんですよ。その次は、榎本小学校の盆踊りのイベントだったかな…この時期は特に忙しいですね。（本取材は7月に実施）

－榎本フラガールズの講師として大切にされていることは何ですか？

今日から新しく入ってきてくれた人も一緒にレッスンしたのですが、ここに来たら知らない人同士でも仲良くなれることが榎本フラガールズの良い点だと思います。大切にしていることは、みんな仲良くすること。それがフラにも表れるんです。きれいに踊れるに越したことはないのですが、そこはまあなかなかね(笑)。思いどおりにはいなくても、ここらへんで「まあええかな」というのが生涯学習かなと思っています。誰でもできる、誰でも楽しめる、ということを中心にしています。

－江尻先生が厳しいことをまったくおっしゃらないのが印象的でした。

いや、怒ったら怖いんですよ(笑)。イベントの時など、慣れていない高いステージで思わぬことが起こり得ます。事故が一番怖いんです。なので位置取りなど厳しく言っていますよ。

－こまめに休憩を入れて水分補給を促しておられましたね。

いや、まだ少ないくらいです。調子が悪くて腕が上がらない人でも、水分を補給することで、終わる頃は腕が上がるようになったりしますし、体がスカッとします。体がしんどい人は顔を見たらわかるので、よく顔を見るようにしています。

－江尻先生にとってフラダンスの魅力とは？

フラダンスの振りには一つ一つ意味があり、踊る前にみなさんに意味を説明しています。そして、イベントなどのステージでは、みんなお化粧して、まつげして、きれいなピンクや赤などの衣装を身にまとい、みんな見違えるほどガラッと変わります。それがいいんですよね。これだけ動いたら、お腹も空くので、その後の食事もおいしくいただけます。



講師の江尻らん子先生

江尻先生の熱い想いをうかがった後、改めて、推進員の水口さんからもお話をうかがいました。

－今後の榎本フラガールズの活動についてどのように考えていますか？

介護施設のほか、地域の敬老大会、鶴見区民まつり、地域活動協議会主催の「えのもとふれあいまつり」などに出演していて、オファーがあれば積極的に出るようにしています。

江尻先生のつながりで出させてもらっているイベントも多いです。そういうイベントに出演することがモチベーションにつながっていると思います。

－現在も榎本フラガールズのメンバーは増えていますか？

口コミで増えていっているように思います。フラダンスは、こどもから大人まで誰もが楽しめるというのが集まりやすい理由だと思います。今後さらに人数が増えるようなら、この多目的室では手ぜまになるので、2部制にすることなども考えていきたいです。

－推進員として、生涯学習ルームの運営に関する課題などありますか？

今年から新たにタヒチアンダンスを立ち上げて、今は8人くらい集まっているのですが、一方で書道や真美健康体操は、年配の参加者が多く、チラシも出したりして広報しているのですが、なかなか新しいメンバーが増えてくれないのが現状です。あとは、これから推進員になる方が、榎本小学校区で見つけるのがなかなか難しく、次が…と悩んでいます。どこもそうなのかな？



生涯学習推進員の水口正示さん

編集後記

この日はイベントでの発表の直前ということもあり、練習に取り組む姿勢は真剣そのもので、より良いフラダンスを披露したいという熱い想いが伝わってきました。休憩中やレッスン終了後はリラックスされて、雰囲気の良い、仲の良さを感じられました。

江尻先生は、フラダンスの技術向上だけでなく、生涯学習としてのフラダンス教室に適した指導方法で榎本フラガールズのみなさんと向き合っておられました。

そして、推進員のみなさんとメンバーのみなさんの協力によって生涯学習ルームの運営が円滑に行われ、15年以上の長い間、榎本フラガールズが継続し、さらに活動の場を広げようとしています。

次のシーズンも鶴見区をはじめいろいろな場所で、榎本フラガールズのみなさんの優雅で情熱的なフラダンスが見られることを楽しみにしています。

